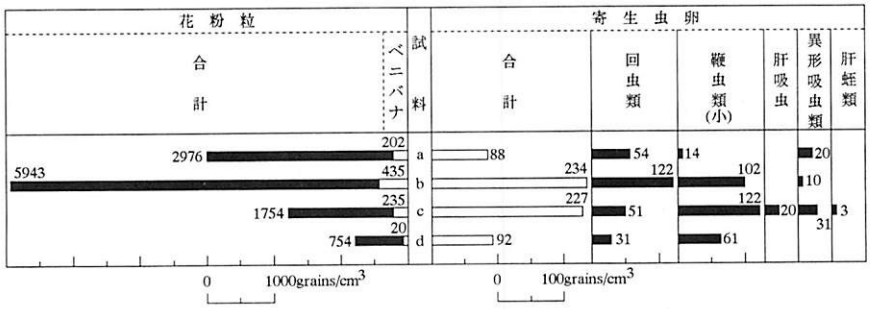
動物遺存体の調査（9）

埋蔵文化財センター

本年度に行った動物遺存体関係の研究成果を報告する。1）群馬県月夜野町教委より提供を受けた矢瀬遺跡（縄文晩期）の土壌の水洗選別。住居址・水場を中心とした地点から土壌を採取し，フローテーション技法を考案しながら分析中である。土中からは多くの焼骨・植物種子が採集され，今後の同定が待たれる。2）島根県出雲市教委による奈良時代から鎌倉時代にかけての上長浜貝塚の発掘・整理に参加し，研究中である。『出雲国風土記』・木簡など文献史料との対比から，古代より中世にかけての漁村の経済史・生活史の解明に大きな成果が期待できる。3）便所遺構の研究；今年度も各地で便所遺構の発掘が相次ぎ，2月23日には平城宮資料館で研究集会「便所をめぐる考古学」を開催した。当日は250名を越える満員の参加者で朝から夕刻まで討議が盛り上がり，社会的にも大きな注目を受けた。発表成果は現在編集中である。『年報1992』で紹介した，平城京東二坊坊間路西側溝 SD4699 の水洗便所発見のきっかけとなった堆積土の試料が，金原正明氏の手元に若干残っており，その寄生虫卵分析の結果を新たに得ることが出来たので収録する。本試料は金原氏が1989年に平城調査部より花粉分析の依頼を受けた際に，将来の新たな分析が可能になった時のために採取し保管していたものである。（松井　章）

平城京東二坊坊間路西側溝 SD4699 の下層（10cm おきに 4 層準 a～d）から，寄生虫卵が比較的多く検出された（下図参照）。分析結果は図示したが，寄生虫卵は回虫類（*Ascaris*）・鞭虫小型（*Trichuris* small type）を主に最大値で 1 cm^3あたり234を示す。他に肝吸虫（*Clonorchis sinensis*）・異形吸虫（*Metagonimus-Heterophyes*）・肝蛭類（*Fasciola-Pramthistomum*）の卵と消化残渣も検出された。東西大溝南 SD5100や朱雀大路東側溝 SD02・東一坊大路西側溝 SD36（『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書』1993　奈良市教委）では，寄生虫卵はまれに検出されるものの，多い試料で 1 cm^3あたりに算定して50内外の値を示す。SD4699下層の値はやや大きく，糞便の成分がかなり多く含まれていると言える。他の溝との値の異なりは，糞便の汚染地または投棄地からの距離や溝による用途の区別などが考えられる。他にベニバナ花粉の出現傾向との関係も図に示したがほぼ相関を示す。ただし，寄生虫卵数と全花粉数も相関を示すため，水流による微細遺体の淘汰が反映されている可能性が高い。

（金原正明・金原正子）